

やまびこ

BULLETIN OF THE YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

No.46 2001.3

[蔵王連峰熊野岳といろは沼]

分館全景



カウンター



医学部分館



ヒポクラテス像



医学部分館
新着雑誌コーナー

もくじ

| | | |
|--|-----------------|---|
| 電子情報検討専門委員会での審議を終えて | 工学部分館長 中野 政身 | 2 |
| 農学部分館のさらなる発展を願って | 農学部分館長 福嶋 忠昭 | 3 |
| ひろば(図書館からのお知らせ) | | 4 |
| 附属図書館(中央図書館)ガイダンス実施計画(平成13年度前期分) | | 5 |
| 電子ジャーナルへの対応 - 第13回国立大学図書館協議会シンポジウム(東地区)に参加して - | 情報管理課受入係長 青野 康雄 | 6 |
| 寄贈された教官著作物 | | 6 |
| 平成12年度附属図書館特別講演会概要紹介 | | 7 |
| 附属図書館協議会審議事項(第3・4回) | | 7 |
| こんにちは! 医学部分館です | | 8 |

《この印刷物は再生紙を使用しています》

電子情報検討専門委員会での審議を終えて

工学部分館長 中野 政身
(電子情報検討専門委員会委員長)

インターネットに代表されるように昨今のコンピュータ及び情報通信技術(IT)の進展は著しく、インターネットを介したマルチメディア情報の収集及び提供が一般的な手段となってきた。大学図書館においても学術情報をインターネットを活用して収集及び提供する環境、いわゆる電子図書館の機能を具備した情報環境の整備が必要不可欠となってきた。このような背景のもと、平成12年2月9日の評議会において学長から附属図書館協議会に、今日の電子的情報社会に即応した電子的情報の収集及び提供等の在り方に関する検討が付託された。附属図書館協議会では、その下に電子情報検討専門委員会を設置して審議をした。電子的情報整備に関する学内及び全国アンケート調査、代表的な二次情報データベースの利用説明会及びアンケート調査、さらに先進機関の実地調査等による学内のニーズと国内の現状の把握に基づいて、山形大学としての電子的情報整備の方策について纏め上げ、平成12年12月に学長に「電子図書館の機能整備の方策に関する報告書」として提出した。その後、本報告書は平成13年1月10日の評議会において提案され、平成13年2月14日の評議会において承認受理されている。今後、関係各委員会等において本報告書の主旨に添った整備の実現に向けて具体的な作業を実施することになっている。

電子情報検討専門委員会では主に以下の4項目の課題について検討を行った。

- (1) 電子資料及び電子情報の収集・整備の策定
- (2) 学内刊行物及び本学図書館が所蔵する貴重図書等の電子化の在り方
- (3) 電子情報提供及び情報リテラシー教育を含む利用環境の整備の在り方
- (4) 上記事項を管理運用するための必要経費の継続的確保

現在、(1)の電子資料及び電子情報としては、それぞれCD-ROMのような電子的メディア及び企業や非営利機関から提供されている各種のオンライン型データベース、電子ジャーナルなどがあげられる。CD-ROMに関しては、電子メディア資料という特質を活かした紙媒体の図書では得られない有用な情報伝達機能をもったものが数多く出版されており、単に研究だけでなく教育上の配慮という観点からも整備が望まれる。現在その利用環境もコ

ンピュータ端末と1対1で対応するスタンドアローン型が大部分であるが、CD-ROMチェンジャーや多くの端末の導入等を含む「情報検索・閲覧コーナー」を整備してネットワークを介して多くの端末から利用できるようにする必要がある。

学術雑誌論文の内容そのものを電子化した電子ジャーナルへの対応は、そのアクセス権取得と冊子体でのジャーナル購入との経費面での効率的な運用という観点から推し進めていかなければならない。今回は、経費面から有料の電子ジャーナルは契約せずに、無料で利用可能な電子ジャーナルの利用を促進するという方向で答申しており、そのリストを整理してアクセスを容易にするなどの利用環境の整備が喫緊の課題である。また、オンライン型データベース(DB)としては、現在唯一学内で共同利用を図っているCurrent Contentsがあるが、今回トライアルと利用説明会を実施したWeb of Science(論文の検索とサイテーション情報DB)の評価が高かったことから、これらのDBを含めてJCR、雑誌記事索引など数点のDBを学内共通経費で購入するよう答申した。これらの二次情報DBは冊子体の学術雑誌の高騰による購読数の減少を補うものとして今後積極的な活用が望まれる。

(2)の学内刊行物及び貴重資料等の電子化は、資料の破損、汚損、劣化等の防止及びインターネットによる学内外者への情報提供という観点から積極的に推進すべき課題である。

情報リテラシー教育は、コンピュータの操作と利用技術に主眼を置いた「情報処理教育」とは異なり、今日のIT時代の情報活動を効果的かつ効率的に行うための情報の検索・収集、分析、発信、プレゼンテーションなどの情報を整理して活用する能力、すなわち個人としての情報活動に関する素養を培う科目と位置付けられ、図書館と連携して授業の一環として実施すべきものである。

今後は、従来からの紙媒体等による図書・情報と、インターネット情報資源も含めた電子化された資料・情報とを有機的に連携させることにより、ハイブリッドな図書館サービスの提供が必要となる。同時に、これらの多様な情報の中から必要なものを容易かつ的確に検索・収集できるような、今日の図書館のポータルとしてのホームページの更なる充実が喫緊の課題である。すなわち、コンピュータ端末

(図書館ポータル)による「机の上の図書館」が実現されつつあることを付して結びとしたい。

最後に、貴重なご意見を頂戴した本専門委員会委員各位、並びに具体的な作業を担当していただいた

事務組織からなるワーキンググループ各位に感謝を申し上げたい。

(なかの まさみ)

農学部分館のさらなる発展を願って

農学部分館長 福嶋 忠昭

早いもので、私が農学部分館長を引き受けてから6年経ってしまいました。なにかアツという間に過ぎてしまったように思います。この間、本館は勿論、農学部会計係や本部事務局関係者のお力添えもあって、今は冷房設備も入り、土曜・日曜でも閲覧室は学生でほぼ満員となっており、大変有り難く思っております。

就任以来最もショックを受けたことは、昨年春補導協議会で作成された学生生活実態調査のなかで、農学部学生の分館に対する苦情が最も多かったことでした。蔵書が少ない、専門書がない、古い本ばかりでレポートも書けない、狭い等々。

専門書に関しては先生方に購入図書を選択して頂いているので洩れは少ないと思うのですが予算に限りもあります。また先生が最新の研究結果を披露されても、それが単行本に記載されるまで時間がかかるということもあるかと思えます。また窓口には購入希望図書を申し出るよう用紙も用意していますが、書いてくれる人はめったにいません。しかし苦情は受けとめねばと思い、購入希望図書があれば申し出るよう、学内の掲示板で通知しましたところ、今は申し出る人が多くなりました。こちらも出てきたものは全て購入するようにしています。そんな訳で、当方の宣伝不足を思い知らされましたが、逆に今年はどんなことを書いてくるか楽しみでもありません。

就任当時を振り返ってみると、まず気がついたことは外国雑誌の購入を減らす先生が多いということでした。実際に調べてみると、5年前には180部程度購入していたものが、当時120部程度に減少していました。昔の農学部では作物の背丈や重さを計ったり、葉を取るとどうなるのか、肥料やホルモンを散布するとどう変化するとかで立派な論文が書けました。その分研究費は少なくてすみます。しかし時代が進むとともに種々の物質の分析が必要になり、遺伝子レベルの研究となると、昔に比べると膨大な研究費が必要になります。一方で外国雑誌は掲載論

文数や印刷費の増加、さらに円高も加わって単価が上昇していました。このような状況の中で、先生方が泣く泣く外国雑誌の購入を断念しているように私には思われました。しかし夫々の分野の研究が、現在どの程度発展し、どのような方向に進んでいるかを常にキャッチしておくことは、東京と違って情報源の少ない山形では、特に重要なことのように思われます。

そこでアブストラクトを収録したデータベースを購入し、個々の文献の詳細はリプリントで取り寄せるのが将来的にも有効と考え、カレントコンテンツの購入に踏み切りました。現在は工学部関係者の努力もあり、全学レベルで幾つかのデータベースを整え、LANで各研究室に流す方向で検討されておりますが、個人的にも将来そうあって欲しいと願っております。

ところでこの種のデータベースを導入すると、当然ですがリプリント請求数が増えます。農学部でも導入以来文献請求数が増加しました。当時は文書で請求を受け付けておりましたが、先生によっては判読し難い英文を書かれる方もおられたこともあって、メールで受け付けるように変更しましたが、便利になったせいか、このことが逆に図書館職員を多忙にしまいました。これに限らず、なんでも電子化すれば省力化に繋がるというわけではありません。そういう観点から将来の図書館をみていくと、情報を手入れすればするほど、それをこなして大学教職員並びに学生に活用して貰うための橋渡し役が必要となり、必然的に図書館職員の業務内容も多忙を極めることとなります。今は一般市民への開放も要求されていますが、このことも含めて図書館の役割を重要と考えている人は多くても、財政的裏付けも同時に考えて下さる人は、諸般の事情もあって、少ないように思われます。蔵書やデータベースの整備だけでなく人材の整備も念頭において頂ければと、退官にあたり訴える次第であります。

(ふくしま ただあき)



より新しいニュースは、ホームページを！

<http://klibs3.kj.yamagata-u.ac.jp/library/>

中央 ☎ 023(628)4913 医 ☎ 023(628)5054

工 ☎ 023(26)3019 農 ☎ 0235(28)2810

全館共通

「電子図書館的機能整備の方策に関する報告書」が評議会で承認されました

電子情報検討専門委員会で作成された標記報告書の原案については、平成12年12月19日開催の附属図書館協議会で承認後、平成13年1月10日開催の評議会において、近藤附属図書館長から概要報告が行われ、2月14日開催の評議会で正式に承認されました。今後は財務委員会等において、実施に関する細部検討が全学的に行われる予定です。

なお、報告書の本文及び資料編の全文は、附属図書館HPで見ることができます。

中央図書館

館内を模様替えし、喫煙コーナーを移転します

年度末に館内の模様替えを実施します。まず電子図書館的機能向上の一環として、入退館ゲート正面の目録カードの大部分を、会議室前に移動し、新たに情報検索コーナーを設置します。3階マルチメディアコーナーの端末も、ここに集中します。

また、館内環境を良好に保つために、これまで新聞コーナーに設置していた灰皿を、玄関外と会議室前に移動しますので、ご協力願います。

医学部分館

<http://klibs3.kj.yamagata-u.ac.jp/library/medical>

土曜開館時間を延長し日曜開館を開始しました

平成13年1月から、土曜日の開館時間を延長し、併せて日曜日の開館を開始しました。

土曜日の開館時間：10時00分～17時00分

日曜日の開館時間：同上

ただし、学生の休業期間、国民の祝日及びその振替休日は、従来どおり閉館しますので、ご注意ください。

学術雑誌の講座貸出について

学術雑誌の集中管理方式を一部緩和し、講座費購入の学術雑誌で、分館長が“Specific Journal”と認定したものに限り、講座貸出を開始しました。

医学中央雑誌Web版を購入します

平成13年4月から、従来の医学中央雑誌CD-ROM版に加え、Web版の購入を開始します。同時アクセス数は2で、利用は医学部キャンパス設置のコンピュータからに限られます。これに伴い、平成13年1月から、医学中央雑誌冊子版の購入は中止しました。

工学部分館

<http://yzlibmacs.yz.yamagata-u.ac.jp/>

購入外国雑誌の集中配架を拡充しました

学術雑誌の共同利用促進を図るため、各研究室への協力を呼びかけた結果、2001年購入外国雑誌の70%以上を分館に集中配架できることとなり、現在2階新刊雑誌コーナーに配架しています。皆様の積極的な利用をお待ちしています。

農学部分館

<http://klibs3.kj.yamagata-u.ac.jp/library/nougaku/>

学生希望図書制度の積極的な活用を！

予算額を増強したせいも、学生希望図書の申込件数および執行金額が前年度に比べて、格段に増加しています。書店に現品があれば、最短では1週間くらいで利用することが可能です。これからも大いに活用されることを願っています。

附属図書館(中央図書館)ガイダンス実施計画 (平成13年度前期分)

新入生のための図書館案内

4月より山形大学の学生になった新入生の方を対象に、山形大学附属図書館をご案内いたします。これからの大学生活をより充実したものにするために、この機会をお見逃しなく!!たくさんの新入生諸君の参加を待っています!

図書館ツアー

- 図書館の中を一巡して説明をします。ふだんは出入禁止の場所も案内します。おたのしみにねー!

[4月9日(月)~13日(金) 1回目: AM11:00~11:20
2回目: PM 4:00~ 4:20]

蔵書検索説明会

- 図書館の本がどこにあるかをパソコンで検索するための説明会です。覚えておくにとっても役に立つよ!!

[4月9日(月)~13日(金) 1回目: AM11:30~11:50
2回目: PM 4:30~ 4:50]

都合のいいときをえらんできてね!
学生証を持って図書館の入りロゲート前に集合してください。

新任教官のための利用説明会

[4月20日(金) PM 4:20~] 図書館1階会議室に集合してください。

新任教官の方を対象に

- 館内案内・サービス概要の説明
- 購入図書及び雑誌の請求手続き
- 貸出図書及び雑誌の貸出と返却
- 文献複写及び図書貸借のメール申込等の説明をします。

各種申請書等提出のため印鑑をご持参ください。

文献の探し方ガイダンス

[5月中旬・6月中旬(未定)]

- 図書コース・雑誌コース・新聞コース**に分けて検索の方法を説明します。
日程がぎまり次第掲示やホームページでお知らせします。
申込が必要です。

平成13年度前期分のガイダンス実施計画です。たくさんの方の参加を待っています。

電子ジャーナルへの対応

- 第13回国立大学図書館協議会シンポジウム(東地区)に参加して -

情報管理課受入係長 青野 康雄

去る平成12年11月21日・22日の両日、筑波大学大学会館特別会議室において、標記シンポジウムが開催された。

第1日目は、板橋秀一筑波大学附属図書館長の開会挨拶に続き、東京工業大学附属図書館事務部長の大笠浩一氏から「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」に関する基調講演があった。

この中で同氏は、エルゼビア・サイエンス社が日本に対して設定した円価格による値上げの実態、各大学が重複雑誌を解消し、実験的にオンラインジャーナルを導入し、試行段階での見極めと適宜の見直しの必要性、国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォースが考案中の契約テンプレート等の活用、業者との交渉能力、オンラインジャーナルのメリット(速報性、欠号・製本中といった利用制約がない、書架スペースが不要等)・課題(価格が流動的、アーカイブへの永続的なアクセス権の保証は、出版社のこれからの検討事項等)研究開発室等の設置による組織的な整備の必要性、国立情報学研究所が提供しているオンラインジャーナルの利用拡大を目的としたPRの必要性、著作権に関する注意事項の遵守、利用者教育の徹底等、多岐にわたっ

て力説された。

ついで、北海道大学ほか2大学から、各大学における外国雑誌の収集と提供についての事例報告があった。どの大学も、雑誌価格の高騰・教官研究費の減少により、購入タイトル数が毎年減少している旨の現状報告があった。

第2日目は、窪田国際事務所長の窪田輝蔵氏の講演の後、群馬大学ほか3大学から、各大学のオンラインジャーナルへの取り組みの事例報告があった。

千葉大学からは、JIOC/NUとしてコンソーシアムを形成しているIDEALへの対応の報告があった。2000年は関東地区5大学によって形成されたが、2001年からは16大学が参加予定である。

このように、多数の大学がコンソーシアムを形成することによって、大口購読者としての交渉が可能となり、大幅なディスカウントが実現できる。

最近、関係者の努力で、定期的に刊行される電子出版を、ネットワーク等により電子的に情報を入手する役務提供契約について、前金払が可能となった。

今後の課題としては、本来のコンソーシアム形成や多年度契約が可能となる国の会計法規の改正が望まれるところである。(あおの やすお)

寄贈された教官著作物 (2000.1~2001.1)

このたび本学の先生方から、以下の著書を寄贈していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。末尾の()内は、請求記号です。

<中央図書館>

- 遠藤賢太郎(教育学部)
- 『遠藤賢作品集 1973-1999: - 光の回帰 - 』生活の友社 2000(723.1//エンド)
- 澤田 秀樹(理学部)
- 『暗号と代数プログラミング』海文堂出版 2000(007.64//アンゴ)
- 石島 庸男(教育学部)『近世初期教育考』栄文堂書店 1999(372.105//キンセ)
- 小田 隆治(教育学部)『生物学と生命観』培風館 2000(461//セイブ)
- 森 芳三(名誉教授)
- 『ユートピアの価値観と戦後社会』山形大学出版会 2000(309//ユトピ)
- 杉浦 守邦(名誉教授)
- 『養護教諭講座』杉浦守邦監修

東山書房 1995-2000

- 内容 1: 養護概説(374//Y22//1-1b)
- 2: 救急処置 第10版(374//Y22//1-2b)
- 3: 基礎看護学 新版(374//Y22//1-3a)
- 4: 臨床医科学 第10版(374//Y22//1-4a)
- 5: 養護実習 新版第3版(374//Y22//1-5a)
- 6: 衛生学・公衆衛生学 第9版
福士襄、杉浦守邦著(374//Y22//1-6a)
- 7: 学校保健 新版第3版(374//Y22//1-7a)
- 8: 予防医学 改訂・第12版
杉浦守邦著(374//Y22//1-8a)
- 11: 健康相談活動(374//Y22//1-11)

<工学部分館>

- 神田 良照『粉体工学用語辞典 第2版』日刊工業新聞社 2000(571//フンタ//2版)

平成12年度 附属図書館特別講演会 概要紹介

平成12年度の附属図書館特別講演会は、評議会からの諮問を受けて検討していた「本学における電子図書館的機能整備の方策」策定の一環として企画され、平成12年11月27日（月）に開催された。出席者は学部長を含む本学の研究者などのほか、東北地区の大学図書館関係者など合わせて40名に上った。講師は図書館情報大学の永田治樹教授で、演題は『「学術ポータル」の設計～図書館サービスの再構築～』であった。

講演では、まず最初に文部省が毎年度実施している『大学図書館実態調査』のデータと、本学附属図書館における最近5年間の同調査データを駆使して、本学と同規模の国立大学平均値とを比較し、当館の活動状況についての分析がなされた。その結果、当館の場合は経費や蔵書数などの「インプット」に比べて、サービスのアウトプットが極めて高いとの評価を受けた。

次いで、日米の大学図書館における諸経費、職員数、図書館サービスなどが数値の比較を交えて解説され、あわせて情報技術の進展やサービス内容の変

革の動向が紹介された。この中で同講師から、大学図書館には近い将来「ハイブリッド図書館」ともいべき多様な情報資源提供機能を求められるであろうことなどが紹介され、本学においても、図書館サービスの再構築について、真摯に論議する必要性を痛感させられた。講演後にあった活発な質疑応答も、図書館に寄せる利用者の期待の大きさを如実に示すものと考えられる。（編集部注：ポータルとは、情報資源への入口という意味である。）



附属図書館協議会審議事項

平成12年度第3回議事（平成12年12月19日開催）

1. 図書館経費の追加予算配分（案）について
2. 山形大学附属図書館文献複写料金徴収猶予取扱規則の一部改正（案）について
3. 電子情報検討専門委員会報告について
4. 大学基準協会加盟判定審査のための点検・評価報告書について
5. その他

平成12年度第4回議事（平成13年2月19日開催）

1. 平成14年度概算要求について
2. 平成13年度学長裁量経費及び事業費の要求について
3. 平成13年度大型コレクション及び自然科学系図書資料の要求について
4. その他

おわびと訂正

第45号の附属図書館電子情報検討専門委員会委員の名簿に誤りがありました。正しくは次のとおり
 （誤）医学部分館長 遠藤 政夫 （正）医学部教授 塩飽 仁

こんにちは！医学部分館です



〒990-9585
山形市飯田西二丁目2-2
TEL 023-628-5054
FAX 023-628-5059
E-mail itosyo@kbureau.kj.
yamagata-u.ac.jp
http://klibs3.kj.yamagata-u.ac.jp
/library/medical/MedMain.html

2001年1月xx日午後：医学部分館図書係事務室

「トゥルルル」
「医学分館です。もしもし。」
「山形大学の方ですか？それでしたら、自由に利用していただいて結構です。はい、朝9時から夜の8時まで開館していますので。」
「日曜日？大丈夫です。土・日も朝10時から夕方5時まで開館してますから。」
「資料？そうですね。ほとんど医学や看護学関係の雑誌です。雑誌は集中管理してますから、買ってるものはこちらでほとんど見られますよ。」
「雑誌は貸出してないんです。でも、セルフコピー機でコピーできます。」
「学生向けの図書でしたら結構そろってますよ。最近沢山買ってますから。あと、CDとかビデオもあります。何でしたら、インターネットで医学分館のホームページ、えーと、アドレスは・・・」
「知ってる。そうですか。いえ、割と頻りに更新してますから、そちらも見ていただけますか。うちで持っている資料が簡単に検索できますから。」
「じゃ、お待ちしてます。」
「今年、雪多いよね。十年ぶりの大雪だって。」
「寒いから温かいやつ！紅茶？甘くして。」
「最近多いね。オンラインジャーナル使いたいって人。便利なもの。でも、利用登録って、やってみるとわかるけど、結構大変。時間かかるしさ。英語苦手だし。」
「オンラインジャーナルへのリンク、うち少くないと思うよ。フルテキスト100タイトル以上見られるもの。でも、もっと増やしたいね。」
「時間がない。わかるけどさ・・・」
「トゥルルル」
「医学分館です。あ、先ほどの方ですね。」
「すみません。専用駐車場、ないんです。あの、病院の駐車場に止めてください。」
「病院の駐車場から、西、つまり奥の方に少し歩いてもらうと、チョコレート色の建物が2つ並んでま

す。向かって右手が図書館ですから。そっちからですと、入口は裏側になります。」
「ええ、正面玄関に入って左の階段を昇ってください。カウンターがありますから。」

“ そうですね、図書館報の原稿、そろそろ締め切りか・・・ ”

－ 山形大学附属図書館は昭和51年に竣工、県内唯一の医学部の図書館として、医学部及び県内医療関係者の方々に医学及び看護学関係の情報の提供に努めている。

当館は、外国雑誌の利用が中心であるため、資料費の大半をその購入費に充当しており、外国雑誌購入費予算は共通費及び講座費を合計すると、年間約5,800万円になっている。これは、同規模の他の医学系図書館と比較して、決して見劣りする数字ではない。しかし、巨人の松井選手の年俸が約5億円、北陸新幹線(長野～上越間)の建設費が約3,000億円であるといった話を聞くと、山形県民125万人の命を守る本県唯一の医学部の図書館の外国雑誌購入費は高々0.58億円か、などと思ったりもするのである。

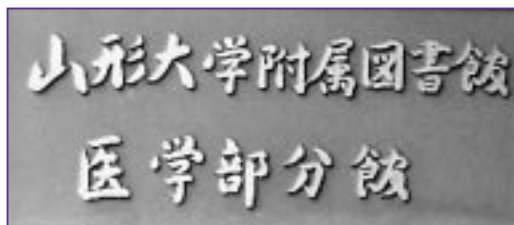
また、当館は築後二十数年が経過して、書架・座席とも随分窮屈になってきた。数年前から増築の要望は続けているものの、国の台所も・・・

「トゥルルル」 「はい、医学分館です。」
「山形医学ですか？こちらで担当してます。」
「はい、是非投稿お願いします。今回原稿の集まり良くないですよ・・・」
「原稿の締め切りは1号は3月1日、2号は9月1日です。関係書類はカウンターでお渡ししますのです。」
「よろしいですか？」

－ 杉田玄白は、オランダ語の「鼻」の一語を調べたのに春の長い一日をついやしてもわからなかったという。それから二百数十年、今では世界中の情報が、ネットを利用すれば、誰でも何処でも瞬時に簡単に手に入る。そうした時代における医学図書館の役割について考えた時、その答えは三つ・・・

“ ありや、コンピュータがフリーズしちゃったよ。”

「トゥルルルルルル」
「はい、医学分館です。」
「担当者として代わりますので、少々お待ちください・・・」



原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。

☎ 023 (628)4910 Eメール jsakacho@kbureau.kj.yamagata-u.ac.jp

~~~~~ 山形大学附属図書館 2001年3月発行(年2回刊) ~~~~~

☎ 990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 http://klibs3.kj.yamagata-u.ac.jp/library/